

**街角**  
**トピックス**

**松江** ◆県立大O  
G招き就活セ  
ミナー 県立天短期大学  
部(松江市浜乃木7丁目)  
の学生団体「AMVIS  
ION(アンビジョン)」



がこのほど、卒業生を招いて進路選択について考えるイベントを開いた。参加した1年生20人が意見交換を通じ、将来就く仕事に思いを巡らせた。写真。

学生が考案した事業に大学側が経費を助成する「キラキラドリムプロジェクト」を活用して実施。卒業生で、事務代行業を行う「Cocoro Ribbon(ココロリボン)」(松江市下東川津町)の大川真美社長(39)と長島あゆみさん(42)が「マイナスの経験もいずればプラスとなる」などと語り掛けた。参加した酒井歩美さん(19)は「形にとらわれな

い生き方をしたい」と話し、イベントを企画した総合文化学科2年の山田理乃さん(19)は「多様な生き方があることを知ってほしい」と願った。  
(古瀬弘治)

**島根県立大次期中期目標  
地域貢献など3本柱に  
有識者会議が提言書案**

島根県立大(本部・浜田市野原町)の第3期中期目標(2019〜24年度)を検討する有識者会議(座長・古瀬誠島根県商工会議所連合会会頭、13人)の最終会合が14日、松江市内であり、地域貢献と、北東アジア地域研究センターを含む研究の見直し、理事長兼学長の権限強化を柱とした提言書案をまとめた。委員から異論はなく、20日に溝口善兵衛知事に提出する。

提言書案は資料を含めて全35頁。基本的な考え方で、県民の期待に応える存在意義の高い大学▽地域に貢献する人材の輩出▽地域が抱える諸課題に対応する研究と教育の重視▽理事長・学長のリーダーシップによる機動的で戦略的な運営の四つを掲げ、浜田、出雲、松江の3キャンパスの在り方などを提言した。

これに加え、独学で保育士資格を取得して保育現場で勤務する社会人が学び直せる教育環境の整備や、厳しい経済環境に置かれていたり、将来地域貢献が期待されたりする学生への授業料減免や奨学金に関する支援の在り方の検討などを記載した。

県は提言を受けた後、2018年2月県議会で中期目標の骨子案を示し、同年12月での議決を目指す。松尾紳次総務部長は「提言を中期目標に具体的に落とし込み、実現するための取り組みを進めるよう努力する」と強調。終了後、清原正義理事長兼学長も「真摯に前向きに、提言を実現する具体策を作る」と話し、骨子案の県議会提出に向けて学内に改革本部を設置し、県と調整する考えを示した。  
(尾添大介)

# 県内7地域の郷土料理 伝承へ調理方法学ぶ

県立大短大生

松江

県立天短期大学部健康栄養学科の学生が21日、松江市浜乃木7丁目の松江キッチンパスで、焼きさば寿司など県内7地域の郷土料理を作った。料理の魅力を知り、次世代への継承に何が必要なのかを把握するのが狙



作り方を教わり、調理する学生たち

い。今後、県のホームページに継承方法をまとめたりポータルを掲載する。県から受託した食育の情報発信研究の一環として実施。1年生25人が出雲、浜田など7圏域から講師を招き、郷土料理21品の作り方や歴史を学んだ。雲南圏域の班は焼きさば

寿司に挑戦。身をほぐし、酢飯を切るように混ぜることを教わりながら作った。隠岐圏域はカニ汁、益田圏域は刻んだ野菜や鶏肉を混ぜた「うずめ飯」を調理した。焼きさば寿司を作った井上花那さん(19)は「食べたことがあっても実際に調理したのは初めてだった。骨の取り方やほぐし方を教わり、勉強に」と話した。講師を務めた隠岐の島町食生活改善推進協議会の松田照美会長(74)は「卒業後も地域の郷土料理に関心を持ってもらい、継承に努めてほしい」と願った。

◆県立大生、県外で島根の魅力PR 県立大短期大学部総合文化学科1年の小森夕子さん(19)と後藤琳さん(19)がこのほど、京都市の大型店で島根をPRするイベントを行い、買い物客に魅力を伝えた。小森さんは滋賀県、後藤さんは京都府出身。ともに島根が好きで同学部に進学した。実際に暮らし、より好きになったという。

今年7月、県外の人に島根を知ってほしいと、大学側が学生の夢を後押しする「キラキラドリムプロジェクト」に応募し、事業採択を受けた。県観光振興課や松江市内



の観光物産店に協力を依頼。PRパネルやアンケート回答者らに渡す景品の提供を受けた。イベントでは島根の魅力を記したパネルなどを

(古瀬弘治)